

## 平成 31 年度 食品の安全性に関する有害微生物の サーベイランス・モニタリング年次計画

サーベイランス及びモニタリングの実施に当たって、微生物リスク管理基礎調査事業により分析を委託する場合は、分析結果の信頼性を確保するため、精度管理を行うことや ISO (International Organization for Standardization) 法などの妥当性が確認された分析法を用いること等を条件として競争入札を行い、分析機関を選定する。

### サーベイランス

| 危害要因  | 調査の趣旨<br>(目的と経緯)   | 具体的な<br>調査対象品目  | 予定<br>調査点数 |
|---|--|-----------------|------------|
| 腸管出血性大腸菌、サルモネラ、リステリア・モノサイトジェネス<br>大腸菌(指標菌として) | <p>【目的】</p> <p>スプラウト<sup>1</sup>の安全性を向上させるための措置を検討するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプラウト生産における有害微生物の汚染実態の把握</li> <li>・生産施設における「スプラウト生産における衛生管理指針」に基づく衛生管理の取組状況の把握</li> <li>・衛生管理指針の効果の検証を行う。</li> </ul> <p style="text-align: center;"> <span style="font-size: 2em;">{</span> <span style="display: inline-block; vertical-align: middle;">           H30 年度: 後半(冬季)600 点<br/>           H31 年度: 前半(春～夏季)800 点         </span> <span style="font-size: 2em;">}</span> </p> <p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプラウト生産施設(6 施設)において汚染実態を調査し(H23, 24)、種子の殺菌、栽培水の管理等の生産における重要な衛生上の管理点を特定。</li> <li>・原料種子の管理のため、種子受入時の検査法を検討中(H28-30)。</li> <li>・「スプラウト生産における衛生管理指針」を策定・普及(H27-)。</li> </ul> | 出荷前の<br>スプラウト製品 | 600        |
|   |  | 原料種子            | 200        |

<sup>1</sup> 主に穀類、豆類、野菜の種子を人為的に発芽させた新芽で、発芽した芽と茎を食用とするもの。

|        |   |                      |       |
|--------|---|----------------------|-------|
| サルモネラ  | <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国産鶏卵の汚染がH19年度実施の実態調査の結果と同等に低いレベルに維持されていることを確認。</li> </ul>   | 市販鶏卵の卵殻              | 2,300 |
|        | <p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市販鶏卵の卵殻の0.2%(5検体/2,030検体)はサルモネラ陽性(うち0.1%(2検体/2,030検体)がSE<sup>1</sup>陽性)で、卵の内容物は全て陰性(H19)。</li> <li>・洗卵によって卵殻上のサルモネラ陽性率が下がることを確認(H22)。</li> <li>・「鶏卵のサルモネラ総合対策指針」を策定(H17)。「鶏卵の生産衛生管理ハンドブック」を策定・普及(H24-)。</li> </ul>  | 市販鶏卵の卵内容物            | 2,300 |
| ノロウイルス | <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の主要海域のカキのノロウイルス汚染について、平常時の水準(ベースライン)を把握。結果は、海域毎の実態に適したノロウイルス低減対策を検討するための基礎情報として活用。</li> </ul> <p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カキのノロウイルス汚染率は、生産地や年によって異なる(H25-28)。</li> <li>・浄化処理<sup>2</sup>はカキ中の細菌数の低減に有効だが、ノロウイルスの除去・低減には無効(H26)。高圧処理<sup>3</sup>はカキ中のノロウイルスの低減に有効(H28)。</li> </ul> | カキ                   | 1,300 |
| 有害微生物  | <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農場間、家畜間の食中毒菌の伝播や安全性向上対策の効果等に関する情報を得る。</li> </ul>  | 調査事業で得られた菌株及びウイルス遺伝子 | 200   |

<sup>1</sup> サルモネラ・エンテリティディス (*Salmonella* Enteritidis) の略。鶏卵がサルモネラに汚染される経路として、on egg 感染と in egg 感染がある。前者は、卵殻に糞便がつき糞便中の菌が卵殻を通過して汚染することを指す。SE については、菌が生殖器官を上行して卵内へ侵入し、産卵前から鶏卵を汚染することがある(in egg 感染)。in egg 感染の場合、卵殻を洗浄しても菌を完全に除去することができないので、衛生管理上の問題となっている。

<sup>2</sup> 浄化処理: 殺菌した海水中で、水揚げ後のカキを一定時間飼育すること。衛生対策のひとつとして多くの産地で用いられている。

<sup>3</sup> 高圧処理: 殻付きカキに機械を用いて高圧をかける処理。殻剥きの自動化を目的として、いくつかの生産地で導入されている。

その他の調査(事業者と連携して、汚染防止・低減対策の検討等のために行う調査)

| 危害要因                       | 調査の趣旨<br>(目的と経緯)   | 具体的な<br>調査対象品目          | 予定<br>調査点数 |
|----------------------------|--|-------------------------|------------|
| 腸管出血性大腸菌、サルモネラ、大腸菌(指標菌として) | <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生鮮野菜の安全性を向上させる措置を検討するため、野菜の生産現場における衛生管理の現状及び管理内容に応じた細菌数の実態を把握。</li> </ul> <p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫直前の生食用野菜から有害微生物は不検出。一部試料から大腸菌が検出(H19-20、H25-28)。</li> <li>・「栽培から出荷までの野菜の衛生管理指針」を策定・普及(H23-)。</li> </ul>  | 農業用水                    | 検討中        |
|                            |  | 葉物野菜                    |            |
| カンピロバクター、サルモネラ             | <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉用鶏農場の鶏群のカンピロバクター低減に有効な衛生対策について具体的な条件を確立。</li> <li>・前年度に引き続き、飲用水の消毒、空舎時の管理、バイオセキュリティの強化(作業靴の管理の徹底、作業区分や動線の見直し等)等の対策技術を検討。</li> </ul> <p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶏群のカンピロバクター及びサルモネラの汚染を減らすことにより、鶏肉の汚染率が下がり、食中毒事例の減少につながると推定。(H19-30)</li> <li>・「鶏肉の生産衛生管理ハンドブック」を策定・普及(H23-)。</li> <li>・農場の基本的な衛生管理実施率は9割以上だが、鶏群のカンピロバクター及びサルモネラの陽性率は減少していない。</li> </ul> | 新鮮盲腸便                   | 計 2,500    |
|                            |  | 環境試料<br>(飲用水、鶏舎拭き取り等)   |            |
| カンピロバクター                   | <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンピロバクターは大気中で死滅しやすく、検体の採取から検査着手までに菌濃度が低下する可能性。</li> <li>・よって、検体中のカンピロバクターの菌濃度をより正確に把握するため、菌体に影響を与えにくい検体の輸送方法を検討。</li> </ul>  | 肉用鶏農場で採取したソックスワブ又は新鮮盲腸便 | 検討中        |

| 危害要因   | 調査の趣旨<br>(目的と経緯)   | 具体的な<br>調査対象品目 | 予定<br>調査点数 |
|--------|--|----------------|------------|
| ノロウイルス | <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治体等を対象とした「感染性推定遺伝子検査法」等の実技研修及び共同試験を行い、より信頼性の高い試験結果を得るためには、妥当性が確認された試験法の採用や精度管理が重要であることについて理解を深める。</li> </ul> <p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「感染性推定遺伝子検査法※」の性能を確認するため、複数の試験室による共同試験を実施(H29)。</li> <li>※ カキ中の感染性を有するノロウイルスを特異的に検出する方法</li> </ul> | カキ             |            |